

山岳地域の源流域における積雪期の物質収支

Mass balance in a mountainous watershed

鈴木 啓助 [1]; 倉元 隆之 [1]; 田中 基樹 [1]; 村本 美智子 [1]; 南波 雅治 [1]

Keisuke Suzuki[1]; Takayuki Kuramoto[1]; Motoki Tanaka[1]; Michiko Muramoto[1]; Masaharu Nanba[1]

[1] 信大・理・物循

[1] Dept. Environ. Sci., Shinshu Univ.

わが国のような多雪地域では、降雨にもまして降雪によってもたらされる多量の降水が水資源として極めて重要になる。さらに、雪はある期間堆積することにより天然のダムとしての役割も果たしている。山岳地域では低地よりも多くの降雪があることは定性的には推定されているが、定量的には必ずしも明らかにはなっていない。山岳地域の降雪を含めた降水量を定量的に把握することは、水資源の観点からも重要である。また、山岳地域の河川水質は、水資源としてのみならず河川水の水質形成機構解明のためにも詳細に検討する必要がある。山岳地域における水循環・物質循環研究の一環として、北アルプス乗鞍岳東側斜面の河川源流域において水収支、物質収支に関する調査を行ったので、その結果を報告する。